

令和7年度 第6回 深伊沢小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 程 令和8年2月5日（木）17：30～18：45

2 場 所 深伊沢小学校会議室

3 挨 拶

- ・委員長 ・昼間は暖かいが、週末寒波が来て、体にこたえる時期である。健康に気をつけていただきたい。
- ・校 長 ・今回は最後になったが、学校では今年度の課題整理を2月に行い、3月に方向性を決めていく時期となった。よりよい学校にするため、ご意見をいただきたい。

4 熟議内容

（1）学校関係者評価について

- ・別紙の説明（別紙参照）

（2）来年度の行事予定

- ・来年度の年間行事予定の紹介

（3）今年度の総括・来年度に向けて

- ・生徒指導事案が少なく、すごいことである。学校が荒れてしまったり、いじめがこじれたりすると大変である。世知辛い世の中で、いいニュースが少ない。女子が突然いなくなる事件もあった。不安がなく、学校に行きたいという学校でありたい。大縄跳びで上級生が下級生を教えて、面倒をみるという姿は、すばらしい。
 - ・11月のピンクシャツ運動は、こどもたちはその意味が分かっているのか？
→児童会による劇の発表で、カナダの生徒が始めたというエピソードを伝えた。
- ・人権擁護委員会でも話題となったが、小学生が中学生に集団で暴力をふるったという事件があった。難しい時代である。
 - 鈴峰中学校区の連携で、児童生徒の情報共有や生徒指導の方向性等を交流し、早期対応に努めている。
- ・朝の登校の様子で、は2列できちんと歩いている。時々ふざけて道の脇に行く子もいたが、なかよく歩いている。FCEでは、昔遊びの指導に老人会で参加したが、楽しかったという声が多くあった。今後も協力したい。
- ・学校通信に、「学校教育目標」が入っている。授業に外部講師も入り、関わっていることが分かってよかった。最近では、雪の日の登校の連絡が6時11分にあったが、それまでに先生方が通学路を確認し、即流してくださっている。不審者についても、どうなったかの結果を流して下さり、安心することができた。とても感謝している。

- ・授業公開も行い、授業改善、指導力向上に向けて、取り組んでいることが分かった。たくさんの人に助言していただくことは必ずプラスになる。そういう機会が大切である。進んで授業改善をして下さると、それがこどもに返っていく。
- ・単学級でともすると、人間関係が固定化されやすい。下校時は、気持ちが解放されているが、時には乱暴な呼び捨てがある。いたずらのつもりでなくても、下校時は生の声が出ている様子が見られる。
- ・今回の1月26日の授業公開の主体的な学びも、積み重ねである。20～25人の固定化された仲間で、友達関係によるグループ分けはないだろうか。ベースは仲間づくりである。クラスや縦割り班など、鈴峰中校区で情報公開しつつ、こどもも先生もレベルアップしていただきたい。
- ・地域の者として、楽しく元気に行ける学校がよい。小規模校であることを生かせるとうい。こどもたちが自由に意見を言えるとよい。Z世代（現在10代から20代の物心ついたときからネットがある世代）の方とお話していると、「私はこうしたい」という自分の意見を言わない方が多いように感じる。優しい穏やかな若者が多い。自分の思ったことを言っていんだと思ってほしい。主体的なこどもたちであってほしい。
- ・FCEの炊き出しの件では、ご協力いただき、ありがとうございました。通学の見守りの時には、楽しく元気に通学し、言いたいこともわりと言っているように見受けられる。「算数が嫌い」「縄跳びができない。」などと話してくることもある。大縄跳びはできるが、短縄跳びは苦手な子が多いようである。朝の登校にはたくさんの人にかかわってほしい。
- ・中学生は挨拶してくれるが、小学生は100%の返事はない。来年度10月より中学校の部活動は土日が制限され、運動の機会が減る。マラソン大会もやめた学校が多い。行事を減らすと、こどもの鬱憤がたまらないかと思う。深伊沢小学校はマラソン大会の代わりに大縄跳び大会がある。足を速くするにはなわとびがよいので、勧めてあげたらと思う。
- ・受験においても、読書は大事だと思うので、読む量を増やしてほしいと思う。
- ・地域住民であるが、街で小学生をあまり見かけない。どのように過ごしているのか現状はよく分からないが、FCEのけん玉のブースを担当した時には、こどもたちの目が輝いていて楽しそうであった。そういう手伝いはしたい。学校が楽しいと思えたらありがたい。
- ・読書は大事だと思うが、書いてある内容をこどもに質問してもわからないと言う。掘り下げて理解しようとせず、文字を追っているだけのようである。
- ・地域との協働については、地域の集まりで草刈り等、なかなか現役世代は負担であるという肌感覚がある。そうではないという人もいる。私はここで生まれ育っているので、まだ抵抗は少ない方である。
- ・デジタルな世の中になっていくため、活字を読む能力も今ほど必要でなくなるのではないかな。
- ・活字を読む能力は、ヨーロッパでは、デジタルからアナログに戻っている国もあると聞く。
（※スウェーデンは2000年以降、デジタルの教育を急速に進めたが、読解力や集中力、手書き能力の低下が懸念させたため、読む書くといった基本的なスキルへの回帰を行っている。）

- ・活字に触れるのに、N I Eで新聞社6社を無料で購読して活用する取り組みがあるが、お勧めである。タブレットは調べたいところが一発で検索できるため、周辺のことを調べる「道草」ができない。
- ・長欠不登校がダメだとは思わない。行かない選択があつてよい。無理やり登校させるのはどうかと思うが、親としては心配である。
- ・不登校の子もその子の望むところへ進学できるとよい。長い目で学校と離れず、仲間と遊べるとよい。
- ・学校運営協議会で、こどものことを考えてもらっていると感じている。ここでやることがどこまで保護者に浸透しているのかと思う。保護者の意識の差は世代間でかなり違う。この差をどうしていくか。

3 その他

- ・来年度の委員長及び委員の選出について
委員長留任。
主任児童委員・P T A副会長は交代する。大変お世話になりありがとうございました。
- ・来年度の学校運営協議会開催日程について
次回第1回は、5月15日（金）17時から開催する。

4 教育支援課より

- ・今回が最後であったが、活発に議論できたと思う。メインの行事はF C Eであったが、青色パトロールカーに乗っていても、深伊沢小学校は、見守り隊の方がたくさん歩いている。見回り活動を末永くやっていただけるとありがたい。
- ・学校関係者評価もたくさん書いていただいた。来年度につながっていくと思う。どこの会社でもやっていると思うが、P D C Aサイクルで計画・実行・評価・改善していけるとよい。今回の内容・意見が来年度の意見の出発点になるとよい。そして、バージョンアップしていく。できれば、この話し合いを2回目ぐらいに持って、取組をスタートできるとよい。1時間という限られた時間であったが、ストレートに世代間ギャップについても話せてよかったと思う。保護者のところまで、学校運営協議会の意見が下りていないという点をどう解決していくか、教育委員会としても考えていきたい。それを踏まえたうえで、深伊沢小学校の子をどうしていくか、限られた人間関係を解決し、どうしたら大人の社会でも活躍できるか、小中学校9年間で踏まえて考えていけるとよい。

5 その他

なし